

e . 江戸川（放水路）河口（St.5）

St.5 は、江戸川（放水路）河口付近に設置した地点である。

地点前方は、いずれも水面であり、網設置用の杭がある。



ふなばし三番瀬海浜公園方向



海側

写真 - 5 St.5からの景観

f . 行徳鳥獣保護区（St.6）

St.6 は、行徳鳥獣保護区内に設定した地点である。

本地点は、第3回調査時以降より観察を開始した地点である。

地点前方は、水面となっており、対岸にカワウのコロニーが確認できる。

なお、調査時には、行徳野鳥観察舎がアスベスト除去工事により、立ち入り禁止だった。このため、低い場所からの観察になり、コロニーの一部を見通せなかった。



カワウのコロニー方向



写真 - 6 St.6からの景観

#### 4. 調査時期

現地調査は、表 4-1 に示す期日で行った。

表 4-1 調査時期

調査内容	調査期日	備考
スズガモ消化管内容物調査	平成 19 年 11 月 10 日 ~ 平成 20 年 3 月 17 日	混獲なし
カワウ吐出物調査	平成 19 年 11 月 1 日	
	平成 19 年 11 月 8 日	
	平成 20 年 2 月 8 日	
	平成 20 年 2 月 25 日	採集なし
	平成 20 年 3 月 8 日	
	平成 20 年 3 月 17 日	
カワウ飛翔状況調査	平成 19 年 11 月 8 日	地点数 5 地点
	平成 20 年 2 月 25 日	地点数 5 地点
	平成 20 年 3 月 8 日	地点数 6 地点
	平成 20 年 3 月 17 日	地点数 6 地点

## 5. 調査結果

### (1) スズガモ消化管内容物調査

スズガモの消化管内容物調査については、浦安、市川、船橋の3漁協に刺し網等の操業時に混獲された個体の提供をお願いした。

しかし、各漁協とも最近では、刺し網漁による鳥類の混獲防止のため、朝、網を仕掛け、夕方にあげる方法へと変更したため、鳥類の混獲はほとんどおこらないとのことであった。

また、船橋漁協によれば、普通、夜間に行われるマコガレイ漁については、ここ数年、マコガレイの生息数が非常に少なく、刺し網漁はほとんど行われていないとのことであった。

このため、今回の調査時には、スズガモのサンプルは入手できなかった。

### (2) カワウの吐出物調査

カワウの吐出物調査では、コロニー内における吐出物採集及び周辺海域等への飛翔状況の2項目について行った。

#### 1) 吐出物調査

現地調査の結果、表5-2-1に示すとおり、カワウのコロニー内の延べ23地点から65検体の吐出物を採集した。採集した吐出物については、種名、体長及び湿重量について記録した。

なお、吐出物は各地点とも、10～30cm四方程度の範囲に固まって落ちていることから、各地点とも複数のカワウが吐き戻したのではなく、1個体が吐き戻したものであると考えられたことから、23個体分のサンプルである。

この結果、ボラが最も多く、43検体、次いで、ドジョウが17検体、フナ属の一種が2検体、ニゴイ、スズキ及びシロギスが各1検体であった。

魚類の大きさについてみると、いずれの種類も頭部や胴の部分が消化されている個体が多く、全長及び体長を計測できる個体は、一部の個体にとどまった。

また、全長が計測できたボラ20個体は141mm～230mm（1個体のみ290mm、平均：200mm）の個体が確認された。重量では、全長が計測できた個体では、36g～260g（平均77.2g）の個体が捕食されていた。

また、その他の種類については、ニゴイが全長328mm、314g、スズキが240mm、136g、フナ属の一種が頭部が消化されており全長、体重とも不明であった。なお、残存部の長さは220mm及び230mm、重量は228g及び268gとなっていた。

採集日別では、11月及び2月よりも巣内に成長した雛がいる繁殖期の3月の採集数が多くなっていた。

表 5-2-1 カワウ・吐出魚類リスト

	魚種	長さ(mm)	全長(mm)	重量(g)	採集地点	採取年月日
1	ボラ	185	152	63	1	20071101
2	ボラ	207	164	86		
3	ニゴイ	328	275	314	2	20080204
吐出物の採集なし						20080225
4	ボラ	(202)	尾部欠損	104	3	20080308
5	ボラ	172	141	37	4	
6	ボラ	233	189	92		
7	ボラ	(225)	頭部欠損	169	5	
8	ボラ	210	180	73		
9	ボラ	(145)	尾部欠損	41	6	
10	ボラ	178	141	36		
11	ボラ	(160)	頭部欠損	28	7	
12	ボラ	(98)	頭胴欠損	11		
13	ボラ	(127)	頭胴欠損	18		
14	ボラ	(120)	頭胴欠損	19		
15	ボラ	(60)	頭胴欠損	4		
16	ボラ	(155)	頭胴欠損	37		
17	ボラ	(85)	頭胴欠損	14		
18	ボラ	(147)	頭胴欠損	28	8	
19	ボラ	(115)	頭胴欠損	19		
20	ボラ	(115)	頭胴欠損	8		
21	ボラ	(90)	頭胴欠損	5		
22	ボラ	(125)	頭胴欠損	12		
23	スズキ	240	208	136	9	
24	フナ属の一種	(220)	頭部欠損	228	10	
25	フナ属の一種	(230)	頭部欠損	268	11	
26	ボラ	(155)	頭部欠損	26	12	
27	ボラ	180	165	64	13	
28	ボラ	290	265	269		
29	ボラ	180	165	62		
30	ボラ	197	160	71		
31	ボラ	(210)	頭部欠損	114	14	
32	ボラ	(185)	頭部欠損	68		
33	ボラ	190	159	50	15	
34	ボラ	(110)	頭部欠損	16	16	
35	ボラ	(148)	頭部欠損	21		
36	ボラ	170	140	28	17	
37	ボラ	(110)	頭部欠損	8	18	
38	ボラ	(210)	頭部欠損	114		
39	ボラ	190	162	63	19	
40	ボラ	200	170	69		
41	ボラ	210	180	87		
42	ボラ	(140)	頭部欠損	27	20	
43	ボラ	160	130	31	21	
44	ボラ	225	185	109		
45	ボラ	190	160	64		
46	ボラ	195	165	57		
47	ボラ	235	209	132		
48	ドジョウ	(140)	頭部尾部欠損	23		22
49	ドジョウ	(62)	頭部尾部欠損	3		
50	ドジョウ	(100)	頭部尾部欠損	7		
51	ドジョウ	(50)	頭部尾部欠損	1		
52	ドジョウ	(90)	頭部尾部欠損	5		
53	ドジョウ	(100)	頭部尾部欠損	6		
54	ドジョウ	(106)	頭部尾部欠損	9		
55	ドジョウ	(140)	頭部尾部欠損	20		
56	ドジョウ	(140)	頭部尾部欠損	28		
57	ドジョウ	(100)	頭部尾部欠損	5		
58	ドジョウ	(120)	頭部尾部欠損	8		
59	ドジョウ	(80)	頭部尾部欠損	4		
60	ドジョウ	(65)	頭部尾部欠損	1		
61	ドジョウ	(70)	頭部尾部欠損	1		
62	ドジョウ	(105)	頭部尾部欠損	4		
63	ドジョウ	(67)	頭部尾部欠損	1		
64	ドジョウ	(60)	頭部尾部欠損	3		
65	シロギス	120	100	9	23	

注) 全長: ( )なし: 欠損部のない個体、( )あり: 欠損のある個体  
 体長: 口先から尾びれの付け根までの長さ(欠損部のない個体のみ計測)  
 カワウ1個体分の吐出物を1地点(計23地点、23個体分)とした。

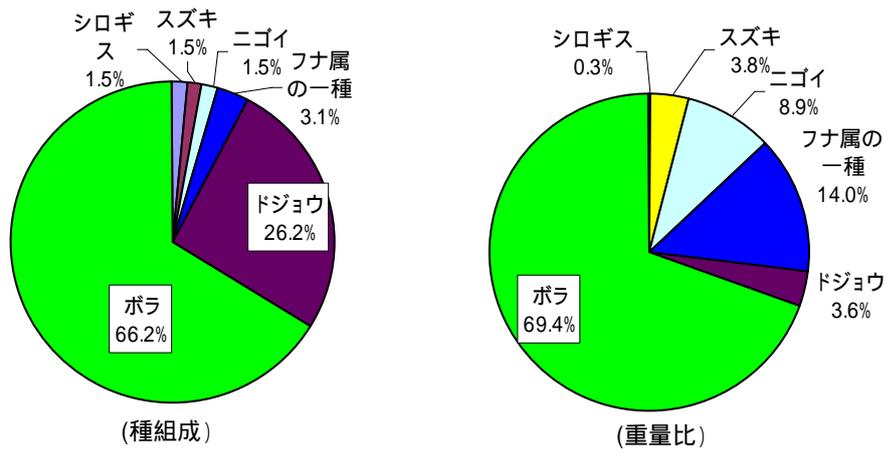


図 5-2-1 カワウ吐出魚類の種組成及び重量比



ボラ



ニゴイ



フナ属の一種



スズキ



ドジョウ



シロギス

写真-7 採集した魚類